

# 分科会報告

## 第23分科会 子ども・青年の発達と教育

### ① 超小規模普通高校の特別支援教育を中心にした学校づくり（大澤 信哉・南幌高校）

今年度閉校する高校での実践。高校教育での特別支援教育の充実を念頭に、学校体制づくりも含めて6年間取り組み、高校3年生6名が全校生徒ということもあり、1人1人に適切な支援を行うことができている。管内でも生徒数が激減しており、大規模校同士の統合も予定されている。支援を要する生徒を「切り捨てる」教員が非常に多いという話もあり非常に厳しい現場の状況が伝わってきた。

### ② ある日のA君（市川 瑞葵・札幌東豊高校）

遅刻してくる教科担当の教師が生徒にも謝罪するのか？自分たちを「下っ端」と称する彼自身に、「下っ端なんかじゃない」と市川先生は声をかけるが、教師と生徒の関係性について考えさせられた、というエピソード。高校では、「怒鳴らない指導をしよう。」という話が職員間で共有されている。逆に、中学校の方が遅れているのではないか？という指摘もあった。

非公開レポート（計4本）についての詳細は記載しておりません。ご了承ください。